

ニュースレター（プロジェクト概要編）

DSD/JICA PROJECT ON DISABILITY

Department of Social Development (DSD) / Japan International Cooperation Agency (JICA)
Project for the Promotion of Empowerment of Persons with Disabilities and Disability Mainstreaming



2016 年 5 月 10 日に専門家 2 名が南アフリカに赴任し、「障害者のエンパワメントと障害主流化促進プロジェクト」を開始しました。5 月 25 日には本プロジェクトのダイレクターおよびマネージャーとミーティングを行い、これからのプロジェクトの進め方について協議しました。第一号ニュースレターでは、これまでの取り組みとプロジェクトの活動案をご紹介します。

目次

これまでの取り組み	1
はじめに	1
活動案	2
今後の予定	2

これまでの取り組み

2007 年 11 月、南アフリカは国連障害者権利条約（United Nations Convention on the Rights of Persons with Disabilities: UNCRPD）を批准しました。社会開発省（Department of Social Development: DSD）は、障害者権利条約を国内政策に反映するため、1997 年に策定された全国総合障害者戦略白書（Integrated National Disability Strategy White Paper: INDS）を障害者権利白書（White Paper on the Rights of Persons with Disabilities: WPRPD）へ改定し、国内の貧困や不平等の是正に努めています。南アフリカには平等な社会経済成長を保証する法や政策はあるものの、継続・拡大する不平等に直面しています。その結果、障害者は教育や職業訓練、雇用などから排除され、多くが最貧困層に位置付

けられています。また、障害者に対するサービスや、権利を享受するための政策はあるものの、特に実施面において改善・強化が必要な状況となっています。障害者への基本的な社会サービスの提供を担当している DSD は、障害者の社会的結束と権利の向上を目的としたアプローチで、障害者がコミュニティで最も不利な状況にあり、最も脆弱な環境に置かれているという現在の差別的慣習という課題に取り組んでいます。国際協力機構（Japan International Cooperation Agency: JICA）は、2012 年に障害主流化促進アドバイザーを派遣し、障害主流化促進に向けた活動を DSD と連携して行ってきました。2013 年から 2015 年の間に、DSD と JICA は南アフリカの全ての 9 つの州で 11 回の障害主流化研修を実施し、617 名が参加しました。

はじめに

DSD と JICA は障害者のインクルージョン推進に向けた 4 年間の技術協力プロジェクト「障害者のエンパワメントと障害主流化促進プロジェクト」を 2016 年 5 月 9 日に開始しました。プロジェクトでは、南アフリカの国・州・郡・地方レベルにおける、障害者と障害関連組織を対象としています。JICA は、鷺谷大輔専門家（チーフアドバイザー／障害主流化）および上岡廉専門家（障害者のエンパワメント／業務調整）の 2 名を社会開発省に派遣しています。



コミュニティでの話し合いの場に参加する障害者

活動案

プロジェクトではスタディサイトを2つ選定し（リンボポ州ベンベ郡およびフリーステート州タボ・モフツァニャナ郡）、各サイトで作業部会（Working Group：WG）を設立し、活動の計画・実施・モニタリングを行っていきます。WGのメンバーは、国・州・郡・地方レベルにおける関連省庁の行政官および障害者で構成されます。

プロジェクトでは以下の目標や活動を通じて、障害者のエンパワメントと障害主流化を促進していきます。

- ・障害者の声が活動や政策に反映されるようにする。
- ・2つのサイトで、障害者のエンパワメントや主流化に関するベースライン情報を収集および分析する。
- ・障害者のエンパワメントおよび主流化を効果的に実施できるよう、障害者と社会開発省行政官の知識やスキルを向上する。
- ・2つのサイトで、障害者のエンパワメントと主流化のためのアプローチおよびリソースを作り出す活動を実施する。

具体的な活動案は以下を予定しています。

- ✓ ピアカウンセリング¹
- ✓ 障害者の自助団体の設立および強化
- ✓ 障害平等研修²
- ✓ アクセシビリティに関するワークショップ
- ✓ 関連するコミュニティに根ざしたインクルーシブな活動
- ・セミナー/ワークショップ/研修の成果をモニタリングするためのフォローアップ活動を実施するとともに、セミナー/ワークショップ/研修の効果を増進する。
- ・DSDの障害に関する知識ベースを向上させるとともに、モニタリング評価システムを強化し、DSDの政策やプログラムに障害者の権利が包摂されるよう促す。
- ・プロジェクトを通じて開発されたアプローチを他州でも実施し、プロジェクト効果を拡大する。
- ・障害主流化に関する情報共有を目的としたフォーラムやネットワークの形成を通じ、南アフリカ国内および南部アフリカ諸国間における連携を促進する。

今後の予定

プロジェクトは、障害者自身がプロジェクトの中心であり、社会を変える主体であると考えています。プロジェクトは、障害者のエンパワメントおよび障害主流化の促進を通じ、JICAのミッションである「インクルーシブでダイナミックな開発」のもと、障害者の平等と完全な参加に取り組んでいきます。

これから、本プロジェクトホームページを通じて、プロジェクトの進捗状況などをご報告させていただきます。どうぞご期待ください。

Department of Social Development (DSD):
134 Pretorius Street, HSRC Building, Pretoria,
0001, South Africa

Editors:

Daisuke Sagiya: DaisukeS@dsd.gov.za

Ren Kamioka: RenK@dsd.gov.za



¹ ピアカウンセリング：障害者同士が対等な立場で話を聞き合うことで、悩みや辛さなど心の内を聞き合って支え合うとともに、自立生活のための知識や経験などの情報交換を行う手法。

² 障害平等研修：障害者との対話を通して「障害」を生み出す環境や制度や人間関係についての理解を深め、社会を変えていく行動を考える参加型・発見型の研修で、障害者自身が研修のファシリテーターを務める。